

会議録

会議名	平成29年度第1回 新郷土資料館整備基本構想・基本計画策定検討会	
日時	平成29年5月19日(金) 午後6時30分～8時40分	
場所	クリエイトホール11階第7学習室	
出席者氏名	参加者	大森映子、小野一之、合田恵美子、高橋洋、竹口君夫、内田和隆、及川真由美、柿崎博孝、唐沢靖、本田怜子
	説明者	中野みどり文化財課長(兼 郷土資料館長)、尾崎光二主査、中村善行主査
	事務局	河津美穂子主任、佐藤友紀主事 (株)丹青社 高橋、小杉、幸、諸星、丹羽
欠席者氏名	新井勝紘、池上裕子	
議題	(1)事業活動の考え方について【資料1】 (2)事業活動の事例について (3)展示の考え方について【資料2】 (4)展示手法の事例について (5)その他	
公開・非公開の別	公開	
傍聴人の数	なし	
配付資料名	(1)会議次第 (2)【資料1】事業活動の考え方について (3)【資料2】展示の考え方について (4)【当日配布資料】新郷土資料館に関する小学校アンケートの結果について	

会議の内容

<開会の挨拶>

中野課長より、新任の挨拶を行う。

事務局：それでは平成 29 年度第 1 回検討会を始める。今回の署名は竹口氏をお願いします。

<(1)事業活動の考え方について【資料 1】、(2)事業活動の事例について>

座長：それでは会議次第に基づき会議を進めたい。事務局から資料の説明をお願いします。

事務局より、事業活動の考え方について説明。

座長：機能の構成図の下部に憩いライブラリがあるが、この機能も含める可能性はあるか。

事務局：都市戦略課による医療刑務所跡地活用計画では、新郷土資料館と憩いライブラリを複合施設とする方針が出ている。今後は一緒に内容を計画する予定。

事務局：図書館には色々な形態・方式がある為、図書館部で検討中。今後、関係部署と調整していきたい。

座長：続いて、事業活動の事例紹介をお願いします。

丹青社より、事業活動の事例紹介をスライドショーで説明。

事務局：ここで欠席者から頂いた意見をご紹介します。欠席者 A からは、協創とは主体的な活動が中心になると思うが、今回の資料の事業活動のイメージ図では資料館の下請けのように感じる、またネットワークも、展示の部分に特別展があるが、特別展は館の基本的業務ではないか、と指摘があった。また欠席者 B からは、市史編纂で収集された莫大な資料や、公文書の位置づけを考えて検討して欲しい、資料館が今後市内の歴史文化施設のネットワークの中心となると思うので、その点も入れて欲しい、と指摘があった。

事務局：ネットワーク型の展示に特別展示（連携展示）を挙げたのは、「発掘された日本列島」などのパッケージ展示に資料館の資料を加える展開などを想定した。持ち込み事業等も検討したいので、文化庁の指針に対応したい。

座長：用語の解釈の違いだと思うので、基本事業は企画展示・特別展示、右側はネットワーク展示としてはどうか。また、市史の成果はどこかに記載するか。

事務局：市史の関連資料は多々あるので、今後公開したい。情報発信事業や調査・研究事業などが考えられる。

座長：公文書も含めるのであれば、収集・保管事業にも該当する。

参加者 A：よく検討された内容だと思うが、本来の 4 つの基本事業から拡張すると、スタッフの仕事が増えるのではないかと懸念する。増員などは対応できるのか。

事務局：まだ体制の話はできていないが、新しい資料館に見合った体制

会議の内容

を実現したい。

副座長：事業活動も展示の方法も事例が多々あるが、良い物を実現するには、人や費用、場所が必要となる。施設規模の見通しが出る時期を知りたい。

事務局：全体計画は今年度同時進行しているが、規模に関する明確な数字が今年度中に出るかどうかは未定。

座長：協創の部分で、博物館の社会的役割として、高齢者の方と将来を担う世代は外せないと思う。

参加者 B：八王子市は協創を大事にしていると思うが、開館前から人の手配や準備が必要では。今からでも始めてはどうか。

事務局：ご指摘の通りだ。まずは市民参加による調査研究などを始めたいが、近年ボランティアを募集しても、応募が少ない。他館のように、友の会など、一緒に活動するグループを立ち上げるなど、色々試したい。

座長：協創の体制は、オープン時に揃っていなくても良いのでは。

<(3) 展示の考え方について【資料2】、(4) 展示手法の事例について>
事務局より、展示の考え方について説明。

座長：網羅的に検討しているが、スペースの問題や、八王子の特徴も加えながら具体化してはどうか。

参加者 C：一番大きな文字で書かれる、求められる展示像が「誰もが心地よさを感じられる展示」としているが、違和感がある。「心地よさ」という言葉はイメージがつかみにくい。また、協創の持つイメージである「自主性」や「主体性」といったアクティブな要素がつかみにくいので、主体的に学び、考えるなどがしやすい展示としてはどうか。展示のバリエーションの矢印も、右に行くほど主体性が強くなると感じる。最近、大阪歴史博物館によく訪れるが、色々発見したり考えることができている。

事務局：欠席者 B からも、「居心地のよい展示」には違和感がある、歴史は全て居心地が良いわけではない、八王子の歴史は素晴らしいで終わってよいのか、もっと歴史の骨格を考えてから基本方針を検討しては、と指摘を受けた。表現については今後も検討したい。また I からは、展示の例に屋外の展示や昔の家などが挙げられているが、決まったことなのか、と質問があった。展示内容については、これで決定ではなく今後意見を交えながら考えていく予定だ。

参加者 D：展示計画の前提条件と、基本理念から導かれるポイントの矢印の関係が理解しづらい。今回の基本構想の特色である、サードプレイス、協創、観光情報発信の方針を元に展示を考えてはどうか。

参加者 E：展示のバリエーションに矢印があるが、博物館には色々な利用の仕方があり、色々な利用者の思いがあるので、誘導する矢印は不

<p>会議の内容</p>	<p>要では。また2ページ目に「博物館に関心が低い層」とあるが、このような表現はやめた方が良いのでは。</p> <p>参加者 F：せっかく新しく作る博物館なので、新しい視点や新しい発見が想起できるようなしくみが欲しい。多摩地域は非常に複雑な要素を持っており、俯瞰するのが難しいが、八王子はその中心になり得るので、どんな地域と連携しているか、江戸との関係など、幅広い視点を持たせては。現状の内容では、八王子に関心が無い方に関心を向けてもらえないと感じる。</p> <p>座長：皆さんからのご意見を参考にしたい。また、「博物館に関心が低い層」は「潜在的な博物館利用者」としては。続いて展示の事例紹介をお願いします。</p> <p>丹青社より、展示手法の事例紹介をスライドショーで説明。</p> <p>参加者 G：事業、展示に関する様々な事例を見たが、八王子の核になる事業や展示は何かをイメージしづらい。どの館も核を持った上で展示や活動があるので、何が核なのかを考えるべき。各館の核は何か、また、色々な規模の事例も知りたい。なお、現代の展示や事業はデジタル技術を重視するが、バブル期に開館した施設の今は悲惨。考古学では実物を触わる体験を重視するが、アナログ的な内容も重視して欲しい。</p> <p>参加者 H：歴史に関りがある食の体験などがあると、楽しみながら歴史とのつながりを感じられるのではないかな。</p> <p>参加者 D：館で扱う展示の範囲は、自然は除き、歴史・民俗を対象とすると理解しているが、やはり、八王子の地形や気象の紹介は必要だと思う。また通史展示として、市制100周年に伴う市史の資料は相当まとまっているので、反映して欲しい。</p> <p>座長：皆さんの発言内容を念頭に置きながら、次回に持ち越しとしたい。今後の予定も含めて事務局をお願いします。</p> <p><(5) その他></p> <p>事務局より、小学6年生に実施したアンケートの追加分析結果を報告する。(3年生の時の来館有無による傾向分析)</p> <p>副座長：先月、資料館の協力を頂き、6年生の授業で土器を触る授業を行ったところ、従来人気が低かった科目である社会に対する関心が高まった。体験や実演見学を面白いと感じる傾向が高いので、子どもの視点も重視して欲しい。</p> <p>事務局：次回の第2回検討会は、6月27日(火)18:30~20:30にクリエイトホール11階第7学習室で開催する予定。</p> <p>座長：これにて第1回検討会を閉会する。ありがとうございました。</p>
--------------	--